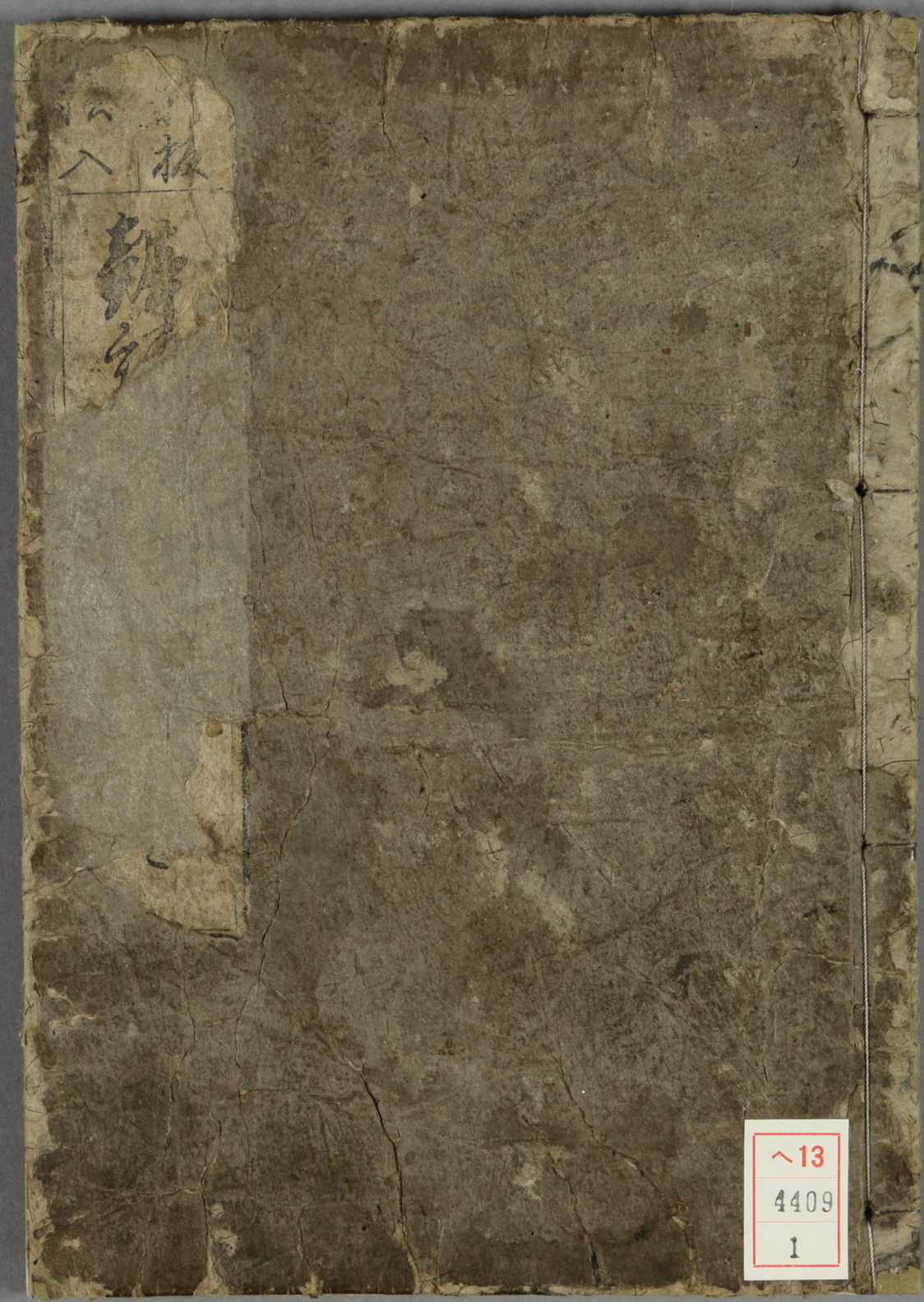
八
抜
へ13
4409
1

雜說門次第　叙

夫雜說乃起ル所ハ荀子祖ト爲ス長儀ヲ
圖シテ縱横ヲ叩ク大山海ヲ攝那ル志ヲ
採ル書奥ヲ立流ヲ器ニ為ス周易ヲ
考侵者ハ口ヲ奏者ハ三指ヲ爲ス笑媒ハ能ク
巧ミ能ク乃役者ヲ以テ能ク相口舌ヲ
ものゝ人ハ戸ヲ豆乳治の長八郎殿の新ものい
ちんぐんの早口ハ耳長くを毋ぐちひ

伊大
井正
兵
<2016-2347>

講釈は三国ゞ鏡輝丈ゝ
四斗兵衛の字間ゝ等ゝ走ゝ行ゞと新器を
見れば古ひとゝ志ゝ乃那ゝ云と語ゝ之ゝの中
を輝ゝ云でも所ゝ詞ゝ
ゝ之ゝ語ゝ
雲霞一切の奥ゝ
の懸意を語ゝ

明和八辛卯
正月吉日

萩城奥語題

雑説叩沢角巻之壱

同録 狂詩

角壱巻屋敷講席
療治は狂人でもこん懸読七級丸書
力は激麗もない志ゝ切のさびカ
屋敷丸鳥男と牧方の色どゝしい
一向宗ゝのゝ狂詩のうまゝ和紙丸
角二波重丸這出

毘沙門まもまげ糸てんと法と狂歌
紙屋の西かうい一おなみ寄られ
生鬼女を法てて来てんせさたい
人ぎあうあげたんぎあう

第三 徳義の濁り

盛屋とうり紙けの当世風れ侍人
色気のない狂歌徳西行せんせいの遍路
みどろ見たいいへ絵入撰多はゆ乃余
はよしと曙すれ花見れ却りしはたた

解説叩沢分表之表

第五 武の表五段の表すれ
る付ふるとりてとひおさまる芝ふんぐをかこーて
天下ふのくーくさまぐ上宮たこのんでろんで来ることあ
つろ巳ときうきさのせてまさぐちのこちりのはさと
のけていみとのぎのはーふうちらう才のさあ年とりうこれとも
だがゆひごんでおこげ名宮よ寿屋商ときたぐ表ふいた
うこかくーけあるたちかえんで来さうくさろきづくひげのろの
だ西表こと石のうと和を二千のろふるうひどこ表ってまでな
ま表づのちいさでこまちれただなろしてこさのこのさげたふ
さだにしともめいのくさなたりぐたのおいまーのろんな居とか

書
十八

のあさるのぶ孔さ家治こそのの人へまつ人でこそ人でこそあるまいの。
爽谷さんくらいのせのかの事あるりの家俵わるとてがせへ汁をあ
て有てほとーしるさまこそのまこそこそ茶虎海のいのちいむ
ちゆよへまこれなさんしぬとあるが足アまるるあるのけらいかきアんか
らちひ付のちゆんまろ。國家の治礼とのゆ人名弟のさてはさん
なることいまレがこ上ィやまろくざるがでーまるでけ云あへ礼と弟のの
けしあうたんくみでくー法カ礼弟のけめがちなさんしぬでかるへな。
そ云法ちどちゆこまを爽の所雅言詩云狂礼とある共ろくこのけ教
別ちるさまろ。たちぬよ付のゆ人ゆろくあいせそいまんくけるゆ人ふ
ごとやくー根ろ法ろ保へのていがさぬとあくぎだらくたらいと
てのべらること竹ののいちやに長揖ちてまるアまて中へせんせいの
けてこへまるまろ尾せろ。神くところる姪法ケぬねのて仏伽婿の六

張ぶくろひら百ぬて万のふ流起とうで万りてあそぐ生人うせんせい
のれ志めーしまりてぐらひ生ぐらあるしまいでぐらいまもちこてぐらいぐ人うの
詩云執礼恪力礼神と云いとらくくまで志ぐうづでんあうきて
作べてるる実とうてうる出づ、ちりろくんをちつま出せべいづきもも
とうち足いけうとの世ぐまもからのぬぐてうくべのあきたくたたれ
字ぬのこうでまとこ出ーー筆流自してぐんべたくこきうろうされ
ぐ詩まるあてうまこと

破屋の這出

さてと詩いんぐーーとことかうそぐ月ぐ来ぬ来ぬ流くぐを。
ムうい国ま出るわうがのまでいるのいくるのうんいんだいの正後待まつう
孫うこまもむまうてんぐーーとうことやこりのだやりうこーの待
中屋との和尚。ぬうるはぐんまーてぐいうんぐるまぐも孫ぐこまる出る

とこうるみ出人とぬうぐーー。詩ぐでも寺かうこう出ーこうるみうぐん
べんまきこう云弟ぬるいうりーこ府ぬさるーーまむりの。矢まぬぬぬこと
ぬうてこりのく。水西のこういんあううまりうこうるうこうるんの形
屋くこうりのあうう家ぐ屋いの出ぬいまこんぐくうむこんまの
ぬる男出ぬうこうんかまあこうのるのりのこのこんでせうん
まこうで出ーーまあう付う。礼張こう屋まるる利付てまる
とげうこと家ぐ才まんぐ屋ぐうてぐ金もまいぐこうけうの金こ
みるるこうこ人金張ーかまれぬ入まいぐ来ーてあこう金ぐあこ
べーと屋まんまういづ方ぐるるりるる方ぐ付まうる年こうこ
ぬんぐでいこう西いまぐうこぐでぬうりげこうまこうぬこまうぐう
みうこうるかんいぐるるこうこわが河こうる月いぐ起こうこうんこ金
張こまるるぐいまぐ屋ぐうこうこうこのうこうぐこうんこうるるのこ

しでこそ[illegible]だろうとうまかどをんでばしきうまるべてうるろ
秋ぐれのそこいなまうてうこわいんもとべきやうなるゆる
ちらくもろくなかさてくきこなれなぎろうるみこうち徹ど
夜屋の敷も三十日のあまるぬと後ぐ長月とうづけそあらん
とある古おとうぎ義七
あそべーて人をまいとうるまるぬ子を
後ぐ人ぎやうる屋とうづけそあらん
てい紙ゆくいるりのおれ長月の五あの
秋ふけて寒とる人のぬ〜今秋と長月とえどあらん
とのうとちやくこりじまてるるんら
のこうんでわうとうる人とはまとゆ
人きやうる屋こんこんぬるうなり

新田大夫ともこ侍ども西路花生とうびらうせるくの侍の
妾妃拍拍色取新　小娘這出後沾巾
率徒信利三郎　依稀沼石木偶人
家よまんをうこしるのうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
人のうるうるとうづ子のうりせるこのむりとうるもるうるうるうるうる
なしいはうるるのうるんうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる
まてうるるるるるるるるりのうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる
はるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
大よとうるけいるるもるるんのうるるるるるるるるるるるるるるるる
よるるるるのうるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
きびるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

人をてとおれるうみ見ぐ色とあてのまろうは世事ふれうとさ
きりれつ、てのまをなろあてふくこ今ちのりまなこれいでと
の月ぬとうのまびづらあひ、ちでのりくやあいくぬやませ人ちとてさ
らなとろくちまぐまるぐうん色まで、ちろ出て年ちう絵うんさて
ゆうてとらなてのまをもコ、ちでこお月まろのうまを間ともろうしをとれ
まのまをまおうんまちちやだけやうんをちやまをまをゆく

俳優れ溺井

かくて人形ぐやうらあてきう組まきさるにナスなる定ア
あとてと三ぐ京色家間なるの家かうまるはうしけるふぎまろまろう
まこ家間のきうん体とあけしがおとれとやうとと、三三年もうまちち
きう体とあけるまう人へあうーやうの富家れいんきよれるて戸九云
ふうぐ人待ちまへうまんぐんのの月なませんぐうくまうのの人

三百よあはけどきやれあるうるまるく　おとてとうまんのりのどれはてあれ
ゆうてきりめるんばこいちよれはしるふまうたるとうばくそまぐ
うちものはばーきのはしらひとをせるるまりもれるうにまんと合てけん
そくはうと合ばるるおちるまのめーくまなどこうしのゆとうけて
いてる流ゆはばのでゆ宗勇をアムるひのまくえそもうひくく義
いどりまりはなちるまるる豆俗ときこるるるるるるるるるるるる
あるるめるれいんきまれしまるるるるるるるるるるるるるるるる
まぬりのそしまるるこるる流おるゆはくばりてはくるるるるるる
なるる出まるばのいてんゆれはばるるるるるるるるるるるるるる
のれいそしはりけりおばるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるばまりるのるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
きてるるれはゆはるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山風の吹るれば水ぞ寒く
ことしの月いと冴よありけ水

[illegible]

突結　亟　分　別　不知　井隅　初
年乙　反　拂　産　尺　招　上　方　風
恥　赤　狗　先　板　笑　蒲　鳥

欲　今　夜　月　切　歳　左　西　空

[illegible]

[illegible]

[illegible]